

中国人実習生の 受入事業第7期生スタート

ACTIVE KUMIAI



集合研修風景

山梨県アパレル工業組合（吉田高土理事長）は、平成16年から実施している『外国人実習生共同受入事業』の第7期生の受け入れをスタートさせた。第7期生となる今回も、これまでと同様に、中国江蘇省南通市からの研修生15名が来日、組合企業6社が受け入れ企業となり研修を行うこととなる。

山梨県アパレル工業組合

今回、11月4日に甲府商工会議所研修室で行われた開講式では、研修生15名の自己紹介が行われ、これからスタートする日本での研修生活に対して、それぞれ研修生15名はしっかりとした日本語で自己紹介を行い、「一日も早く日本の縫製技術を学び頑張りたい」と抱負を語った。

開講式後には、(財)国際研修協力機構の担当者から受け入れ企業に対しての注意事項や実習生を巡る諸問題、また昨年改正された新たな実習生制度についての説明会も行われ、1ヶ月に渡って行われる座学研修をスタートさせた。

実習生は日常生活や技術研修に必要な日本語会話の習得を中心に、日本の生活慣習、健康管理、日本の法律や安全などを集合研修で学んだ後、組合員企業で縫製技術の習得を行い、3年間の実習生として就労することとなっている。

11月11日には依田中央会常務理事が講師となり講習を行った。山梨の産業と中国と日本のそれぞれ文化の違いについて実習生と質疑応答・対話などを交えて、終始和やかな雰囲気となっていた。

なお、今回7期生を迎える前の10月29日には、平成19年11月から受け入れを行っていた第4期生の修了式が行われた。吉田理事長より修了生14名に修了書が手渡され、「日本で学んだ縫製技術やたくさんさんの楽しい思い出とともに、中国へ帰っても頑張ってください」と激励の言葉がかけられた。



抱負を語る7期生代表
袁秀风(ユアン シュウフェン)さん